【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成21年4月9日(2009.4.9)

【公開番号】特開2007-235321(P2007-235321A)
【公開日】平成19年9月13日(2007.9.13)
【年通号数】公開・登録公報2007-035
【出願番号】特願2006-51976(P2006-51976)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｍ　1/73　(2006.01)
Ｇ０２Ｆ　1/133　(2006.01)
Ｇ０９Ｇ　3/36　(2006.01)
Ｇ０９Ｇ　3/34　(2006.01)
Ｇ０９Ｇ　5/00　(2006.01)
Ｇ０９Ｇ　5/10　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｍ　1/73
Ｇ０２Ｆ　1/133　５３０
Ｇ０９Ｇ　3/36
Ｇ０９Ｇ　3/34　Ｊ
Ｇ０９Ｇ　5/00　５１０Ｈ
Ｇ０９Ｇ　5/10　Ｚ
Ｇ０９Ｇ　5/00　５５０Ｂ

【手続補正書】
【提出日】平成21年2月25日(2009.2.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
バックライト付きの液晶表示パネルと、筐体側面に設けられたタッチセンサと、このタッチセンサからの信号を有効化できるタッチ点灯モードにおいて前記バックライトの点灯制御を行う制御部とを備え、
前記制御部は、前記タッチ点灯モード時、前記タッチセンサからのタッチ信号が存続するかぎり前記バックライトを点灯させ続けることを特徴とする電子機器。
【請求項２】
前記バックライト点灯後に前記タッチ信号が消滅したあと、バックライトの点灯が所定時間継続されることを特徴とする請求項１に記載の電子機器。
【請求項３】
前記タッチセンサは複数のものが異なる場所に配置されており、全タッチセンサへの同時接触が有効なタッチ信号の条件であることを特徴とする請求項１または２に記載の電子機器。
【請求項４】
前記タッチセンサがバックライトの点灯に関与する液晶表示パネルは折り畳み式筐体の内側の面に配置されており、前記筐体を開いたときのみ前記タッチ点灯モードが有効になることを特徴とする請求項１～３のいずれか１項に記載の電子機器。
【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】発明の名称
【補正方法】変更
【補正の内容】
【発明の名称】電子機器
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００１】
本発明はバックライト付きの液晶表示パネルを備えた電子機器に関する。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
（１）上記目的を達成するために本発明では、電子機器を次のように構成した。すなわちバックライト付きの液晶表示パネルと、筐体側面に設けられたタッチセンサと、このタッチセンサからの信号を有効化できるタッチ点灯モードにおいて前記バックライトの点灯制御を行う制御部とを備え、前記制御部は、前記タッチ点灯モード時、前記タッチセンサからのタッチ信号が存続するかぎり前記バックライトを点灯させ続けるものとした。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
この構成によると、電子機器がタッチ点灯モードであれば、タッチセンサに触れているかぎりバックライトが点灯しているから、検索あるいは照明の目的を達成するまでバックライトを点灯させておくことができ、使い勝手が良い。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
（２）また本発明は、上記構成の電子機器において、前記バックライト点灯後に前記タッチ信号が消滅したあと、バックライトの点灯が所定時間継続されることを特徴としている。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
この構成によると、例えば電子機器を机の上に置いてタッチセンサから手を離した場合、所定時間はバックライトの点灯が継続しているから、改めてタッチセンサにさわり直すことなくキー入力を続行することができる。

【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
（３）また本発明は、上記構成の電子機器において、前記タッチセンサは複数のものが異なる場所に配置されており、全タッチセンサへの同時接触が有効なタッチ信号の条件であることを特徴としている。
【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
（４）また本発明は、上記構成の電子機器において、前記タッチセンサがバックライトの点灯に関与する液晶表示パネルは折り畳み式筐体の内側の面に配置されており、前記筐体を開いたときのみ前記タッチ点灯モードが有効になることを特徴としている。
【手続補正１０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
本発明によると、暗がりで長時間検索したり、暗がりを照明するといった必要に迫られたとき、タッチセンサにさわり続けることにより、目的を達成できるまで液晶表示パネルのバックライトの点灯を継続することができ、電子機器の使い勝手を著しく向上させることができる。